

沢オープニング

水無川 源次郎沢

遡行日：2010年4月4日 曇り

メンバー：新井（L、記録）、松谷、三井、木下、糸井、斎藤

何と、突然リーダーにされてしまった。前日のレスキュートレには来ていた、当初のリーダー橋立さんがまさかのドタキャン。前日帰り際に「明日来ないのでリーダーよろしく！」とな。今まではいつも金魚のフンのようにひたすらくっついて来たこの俺がリーダー？これも何かのお導きかハタマタ愛のムチか。おまけに蓋を開けてみれば超大ベテランの先輩方と一緒にいる。今年は春から縁起がいいやっ！とでも思っていくしかなし。

朝から少し肌寒い。水は冷たくないかと心配したがそれほどでもない。木下さんはもう何年振りかの沢で、ヘルメットを出してみたらひび割れていたとのことでおニューの白いメットで登場だ。松谷さんは去年の沢オープンでこの源次郎沢でケガで敗退しているのだがさすが、また同じ沢でリベンジである。



しかし聞いてみると、今日は滝は全部巻きます、などと冗談を言っている。リーダーは危なっかしいが、ここは日本で一番有名かも知れない初心者の登竜門、源次郎沢だ。滝には御丁寧にF1とかF2とか看板が掲げてあるし沢登りのゲレンデと言っていい。ただここの遡行はボクは初めて物語。今年初の沢なので一歩一歩確かめながら超スローペースでスタート（そのまま最後までスローだったが）。細かい記録はとばして、最初にリーダーとしてリードした（させられた）のはF5、3段10M滝だ。これは流れの左壁を登り、落ち口を右にトラバース。先輩方に後続のビレイの方法を教えてもらいながらという特典付き。

次のリードはF9、CS滝。左から巻くのが普通だがそうは問屋が卸さない？松谷さんが、右が快適に登れますと。見ると残置ハーケンが打ってある。しかし、取り付いてみると快適どころか中段で手詰まりになって右往左往。かなり手間取って何とか登った。ホントに先輩方を待たせてばかりでスミマセン。この頃から霧雨状にガスってきてどんどん寒くなってきた。ここまではほとんど足首くらいまでしか水に浸かって来なかったが木下さんはネオブレンソックスではなくて、冷てえ～、と言っていた。途中で鹿が計3頭死んでいたのをシカト見届けたのを記しておく。源頭部に超大粒で超大量の鹿の糞があったのもシカト見届けたので記しておく。

かなり時間が掛かってしまってメンバーには申し訳なかったが、何とか今年初めの沢を無事に終了することが出来た。いろいろと実地で教えて頂いた先輩の方々、どうもありがとうございました m(__)m